

## 「ラバンとの駆け引き」

2021年04月02日

ラケルがヨセフを産んだとき、ヤコブはラバンに言った。「私を去らせてください。私の故郷、私の生まれた地へ帰りたいのです。妻や子どもを私に与えて行かせてください。あなたに仕えて仕事をしてきたのは彼らのためです。あなたに仕えてやってきた私の仕事ぶりはあなたがよくご存じです。」(創世記 30 章 25 節～26 節)

ヤコブは、愛妻ラケルが神に願いが聞き入れられ、ヨセフを産んだ時、故郷への帰還を決心した。ラバンに、「私を去らせてください。私の故郷、私の生まれた地へ帰りたいのです。妻や子どもを私に与えて行かせてください。あなたに仕えて仕事をしてきたのは彼らのためです。あなたに仕えてやってきた私の仕事ぶりはあなたがよくご存じです」と申し出た。ラバンは、「私はまじないをして、主が私を祝福されたのはお前のお陰なのだということが分かった。それで、もしお前さえよければ、とどまってほしいのだ。支払ってほしい報酬をはっきりと言いなさい。私は支払うつもりだ」と応じた。ヤコブは、「私があなたに仕えてきたこと、また、あなたの家畜が私のもとで育ったことを、あなたはよくご存じです。私が来る前には、あなたのものは僅かでしたが、増えて多くなりました。私が来てから、主はあなたを祝福されたのです。しかし今のままでは、いつになったら私は自分の家族のために仕事をすることができるでしょうか」と言った。ヤコブはラケルとの結婚を望んで、14年間もラバンに仕え、牧羊に励み、ラバンに多くの財産を蓄えさせた。ラバンはヤコブを何としても、手放したくないので必死で留めようと、「何が欲しいのか」と問うた。ヤコブは、「何もくださるには及びません」と言い、ただ、ぶちとまだらの羊をすべて、黒みがかった小羊と、まだらとぶちの山羊を報酬としてもらえるなら、もう一度、あなたの群れの世話をしましよと提案した。そして、「もし山羊の中にぶちでもまだらでもないもの、若い雄羊の中に黒みがかっていないものがあれば、それは私に盗まれたものと見なして結構です」と、念を押した。これらの羊と山羊は極めて数が少なく、その少数の羊と山羊を報酬としてもらいたいという条件である。ラバンは有利な条件を飲み、すぐさま「よろしい。お前の言うとおりにしよう」と承諾した。ところが、ラバンはどこまでも貪欲である。縞とまだらの雄山羊、ぶちとまだらの雌山羊の中から白いところが混じっているものをすべて、黒みがかった雄羊をすべてを別にして、息子たちの手に渡し、ヤコブとの間に歩いて三日ほど離れた所に移した。ヤコブの報酬となるべき羊と山羊を与えない、増やさないと、引き離したのである。ヤコブは、ラバンの仕打ちに対し異議や不平を言うことはしなかった。彼は、少数の羊と山羊を増やす手立てを知っていたからである。

ヤコブは、白ポプラの若枝、アーモンド、プラタナスを取って来て、枝の皮を剥いで、白くむき出しにした。群れが水を飲みに来る時、その枝を群れの差し向かいになるように、水飲み場の水槽の中に置いた。群れが水飲み場に来ると、白い枝を見て発情し、縞やぶちやまだらのある羊、山羊を産んだ。母羊、母山羊が縞模様を見て、生まれてくる子羊、子山羊も縞模様になるという俗信である。自分の群れには、若い雄羊を縞や黒みがかったものを向かわせ、ラバンの群れにはそうしなかった。また、逞しい羊が発情する度に、水槽の中の枝を目の前に見えるように置いて発情させ、弱々しい羊の時は枝を置かなかった。逞しいものがヤコブのものとなり、弱々しい羊はラバンのものとなった。ヤコブは多くの羊と奴隷とらくだを持つ、大変豊かな族長になっていった。強欲なラバンと駆け引きし、ヤコブは知恵と策略によって、神の祝福に与ったのである。